

もう一人の自分に励まされて

2学期に入りこの2ヶ月は、6年生修学旅行、幼小運動会、園小中高合同文化祭をはじめ、多くの行事を軸にして教育活動を進めてきました。保護者・地域の皆様の温かい見守り・応援に心から感謝申し上げます。

先日の全校朝会で、次のような話をしました。内容を紹介し、今月のごあいさつとさせていただきます。

みんなの心の中には「もう一人の自分」がいます。

例えば、悩んでいる時に「こうしたらいいのでは・・・」とそっと教えてくれる。あきらめかけている時に「もうちょっとやってみろよ」と励ましてくれる。ごまかしてやろうとしている時に「そんなんアカン、やめとけよ」と本気で叱ってくれる。いつも「本当の自分」を見守っていて、ときに相談にのってくれたり、指示してくれたり、勇気づけてくれたり、忠告してくれたり・・・そんな「もう一人の自分」が頼りがいのある存在として心の中にきつといます。

私たちは、ついつい横着をしたり、ウソをついたり、楽な方へと逃げそうになってしまいます。私自身も、どちらかというと怠け者で、甘えん坊で、ついつい仕事が後回しになって、直前であわてるタイプです。そんな時、「もう一人の自分」に励まされて支えられて、小さな勇気をふりしぼって乗り切っていきましょう。そうしていくと、もっともっと自分に自信がもてて、自分のことが好きになっていくだろうし、そのいのちを燃やそうとファイトもわいてくる。他人にも優しくなれるし、ウソのない生活を送れて毎日が楽しくなる。そう思うのです。

トイレや洗面所などで、鏡に自分を映して話しかけてみるのもいい。夜空の星たちをしばらく眺めるのもいい。きっと勇気がわいてきて、前向きになれると思います。

もうひとつ、読書の秋にちなんで、「読書のすすめ」もしたいと思います。

教育者：森信三氏は、読書は「心の食物（＝心を養い太らせ、力を与えてくれるもの）」とされています。また、学生時代は、志を立てる時期であることから、とくに多くの偉人の「伝記」を読むことを勧められています。これまで、未来への種まきとして「食の大切さ」をよく話してきましたが、読書は「心の栄養」になるということで、未来の自分をつくるという意味において、とって大切なことだと言えます。読書によって、きっと、心の中の「もう一人の自分」が、さらに信頼のおける存在になっていくのだと思います。

令和6年11月6日

千種学園

栄栗市立千種小学校長 上山 昌秀